

「市立伊丹病院の今後のあり方（事務局案）」

(1) 基本的方向（総論）

『市立伊丹病院は近畿中央病院と統合し、他の医療圏域への流出が多くみられる循環器系疾患などに対応できる機能を有した500床超規模の阪神北医療圏域における基幹的な病院をめざすべき。

併せて、阪神北医療圏域の他の公立病院間においても、円滑な連携や役割分担を図ることにより、市民が住み慣れた地域で必要な医療を受けることができるよう努めるべき。』

(2) 課題に対する望ましい方向性 *再掲

① 高度急性期医療を担う中核病院の必要性

- 他の医療圏域への患者流出の多い新生物や循環器系疾患に対応するため、脳神経外科・心臓血管外科などの診療体制の充実に努め、高度な医療を提供できる体制を構築し、地域における医療完結率の向上に努めるべき。

② 市立伊丹病院の建替えの最適な時期

- 築後35年を経過している現状を踏まえると、市立伊丹病院は建て替えを検討することが望ましい。

③ 安定的運営を実現させる病床規模

- 持続的運営が可能な経営的視点と、高度急性期医療を提供する機能的視点から考慮すると、基幹病院機能としては、500～600床規模の病院が望ましい。
一方で、別途、圏域内における回復期病床のあり方についても検討する必要がある。

④ 最適な立地場所の検討

- 今後の高齢化社会を見据えると、公共交通機関によるアクセスの向上など、利用者の利便性を重視した立地の検討を進める必要がある。

⑤ 他の基幹病院との連携のあり方

- 本市における医療資源を有効に活用するため、市立伊丹病院は近畿中央病院と統合し基幹病院を設置する方向で検討すべき。また、阪神北医療圏域の他の公立病院との連携強化を図るとともに、地域の民間病院・診療所などとの連携強化や機能分化を推進していくべき。